2023.4.9　日本基督教団 阿佐ヶ谷教会 図書委員会

☆☆図書室だより☆☆　☆第42号☆

☆☆– 図書委員会よりお知らせ –☆

清和のみぎり、復活節を迎え、おすすめしたい本と併せて新しく入った本の紹介をさせていただきます。

ご紹介

東京神学大学教授　阿佐ヶ谷教会協力牧師　中野実

『教養としてのラテン語の授業　古代ローマに学ぶリベラルアーツの源流』

ハン・ドンイル 著　本村凌二 監訳　岡崎暢子 訳　　ダイヤモンド社

教会法の専門家で、バチカン裁判所の弁護士の資格をもつ異色の韓国人カトリック神父による本で、西江（ソガン）大学でのラテン語クラスの授業内容をまとめたものです。ラテン語およびその背後にある古代ローマ文化を紹介しながら、西洋の文化、政治、社会、教育、学問の背後に流れる価値観、世界観を教えてくれます。それらの多くは、今日の私たちにとっても人生、歴史を生き抜く上で重要な知恵となるでしょう。そしてそれらの知恵の背後にはキリスト教がある、ということも知ることができます。例えば、人間というものは固く閉ざされた思考や価値観の奴隷になりやすい現実の中で、神学はその問題を柔軟に解くための道具になれるのではないか、と著者は言っています。神学を生業にしている私にとって重要な指摘で、本当に神学がそのような役割を果たせれば良いなと思っています。示唆に富む内容が多いので、ぜひ読んでみてください。

《購入書》	書 名	著者名・出版社・発行年など			
世代から世代へ	教会における信仰形成教育の適応課題	チャールズ・フォスター 著 伊藤悟 訳	教文館	2022.10.30	〔茶 198.37 Fo〕
最も偉大な祈り	主の祈りを再発見する	J.D.クロッサン 小磯英津子 訳 河野克也 解説	日本基督教団出版局	2022.7.22	〔茶 198.36 Gr〕
説教 十字架上の七つの言葉	イエスの叫びに　教会は建つ	平野克己 著	キリスト新聞社	2022.3.2	〔青 198.34 Hi〕
ビジュアル版　はじめての聖書物語		サリー・タグホルム　アンドレア・ミルズ 著 フリアン・・デ・ナムパエス画 山崎正浩 訳	創元社	2022.12.10	〔橙 193. Ta〕
目はかすまず気力は失せず	講演・論考・説教	関田寛雄 著	新教出版社	2021.7.31	〔青 198.34 Se〕
旧約聖書入門	光と愛を求めて	三浦綾子 著	光文社文庫	2021.2.25	〔橙 193.1 Mi〕
新約聖書入門	心の糧を求める人へ	三浦綾子 著	光文社文庫	2022.5.20	〔橙 193.5 Mi〕
三浦綾子　祈りのことば		三浦綾子 著　おちあいまちこ 写真	日本キリスト教団出版局	2022.4.20	〔青 198.34 Mi〕
北東アジア・市民社会・キリスト教から観た「平和」		富坂キリスト教センター 編	燦葉出版社	2022.4.15	〔黒 319.2 To〕
《寄贈書》					
日本の名随筆 別巻100	聖書	田川建三 著	作品社	1999.6.25	〔黒 914.68 Ta〕
イスカリオテのユダ	神の恵みの選び	バルト 著 川名勇 訳	新教出版社	1963.10.20	〔赤 191.9 Ba〕
図説 キリスト教会 建築の歴史		中島智章 著	河出書房新社	2021.3.30	〔黒 526.19 Na〕

『説教　十字架上の七つの言葉』

平野克己 著　キリスト新聞社〔青 198.34 H〕

平野先生が、2020年2月の代田教会創立82年礼拝から4月の復活祭礼拝までの8回に渡り、コロナの急速な蔓延の中で礼拝を守り、主イエス・キリストが十字架上で話された七つの言葉に耳を傾けた、連続説教が収められています。先生の初めての説教集であり、井上直さんの聖画が挿まれています。

イエスは、「父よ、彼らをお赦しください。自分が何をしているのか知らないのです」に始まり、十字架上の罪人に対する「はっきり言っておくが、あなたは今日わたしと一緒に楽園にいる」、新しい家族を生み出した「婦人よ、御覧なさい。あなたの子です」「見なさい。あなたの母です」、本の副題「イエスの叫びに教会は建つ」に繋がった「わが神、わが神、なぜわたしをお見捨てになったのですか」、復活の水へ導く「渇く」、新しい生命、世界が始まる「成し遂げられた」、最後に復活への新しい光となる「父よ、わたしの霊を御手にゆだねます」と話されたのであった。　（信友会　K.I）

『十字架の道』〈みんなの聖書・絵本シリーズ12〉杉田幸子 絵　日本聖書協会
『最初の復活祭』 クリスティーナ・カライ・ナギー 絵　ベサン・ジェームズ 文　サンパウロ

先日、教会学校（ＣＳ）教師会で「イースターの物語は、春休み期間もあって、あまり扱えてなかったね」と反省し、その後、CS礼拝で少し話す機会がありました。辛く重い内容ですが、イエスさまの受難と赦しは信仰の核心と改めて思いました。

イースターの物語には、ロバに乗っての入城、宮清め、洗足、ペトロの裏切りなど、クリスマスと同じくらいエピソードも満載です。残念だったのは、これらを網羅した子どもの本が見当たらなかったことでした。『十字架の道』と、『最初の復活祭』は、その中では読みやすいかなと思いました。

ディズニーでイベントになったり、コンビニで関連商品が売られたり、「イースター」という言葉だけは普及してきた印象です。素敵なイースターの本がこれからたくさん出版されることを願っています。

（シオン会　N.O）

※『十字架の道』はCS教材のため、4～6月限定の閲覧のみになります。

『「青年の夕べ」感話集 いのちの言葉を交わすとき』

飯島信 編著　ヨベル社

コロナ禍の2020年6月から2022年３月まで月1回、立川教会の夕拝にて語られた青年の感話集である。あたかも神様がカウンセラーとなって、青年がクライエントとなり、長い年月、回数を重ねている臨床面接の全てに立ち会わせてもらった錯覚を覚える。クライエントはカウンセラーに全幅の信頼を寄せていないと、カウンセラーに対する不信や葛藤、自分の弱さや人とのかかわりでの傷を自己開示することはできない。この感話集は自己開示の記録でもある。そして、自分の弱さや傷をカウンセラーに受容されることで、クライエントは不完全な自分を受容し、傷ついた他者との関係の再構築へと向かう。自己開示が書籍となることに評者は躊躇を覚えるが、青年が聖書を通して、どのようにいのちの言葉を交わしているか、青年のみならず、いや、中高年こそ読んでほしい書である。　（信友会　図書委員　Y.H）